

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 市立札幌大通高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒 060-0002
札幌市中央区北2条西11丁目

E-mail なし

Website www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 491名 女子 588名 合計 1079名
 児童・生徒の年齢 15歳～70歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

2016年度 市立札幌大通高等学校 ユネスコスクール実践報告

2008年新設の新定時制・単位制の本校では、幅広い分野にわたり約100科目の講座が開講されており、様々な背景の生徒が学びを共にしている。本校では生徒の「多様性」を強みにするべく、教科横断学習、渡日帰国生徒支援、国際交流活動、生徒会活動等を有機的に繋げた多文化共生教育、すなわち「異なる価値観を持った他者を受容できる生徒」の育成に取り組んでいる。

2016年度 大通高校におけるESDへの取り組み

4月～3月（一年を通じた活動）

ミツバチプロジェクト

本校5階で養蜂、採蜜をし、はちみつを使った商品開発、販売までを行っている。

開発した商品は（はちみつ3種・マカロン・ルバーブジャム・トマトジャム・はちみつトマトジュエル）は9月に札幌大通公園で行われている「オータムフェスタ」において情報商業科で販売。今年度は札幌市内だけでなく、7月に東京での販売も行った。

今年度行った事業は、「巣箱・巣枠制作」を芸術科と生涯学習センター学社融合講座でのミツバチ関連授業で行い、「飼育・採蜜」を理科と生物部・外部ボランティアなどで行い、はちみつを用いた加工品・レシピ開発を情報商業科で行った。

職員研修では元玉川大学大学院教授によるミツバチの講演を依頼した。これには教職員の他に養蜂家やNPO法人サッポロ・ミツバチ・プロジェクトの方も多く参加した。またPTA研修部では専門家による「はちみつを使った料理講習と女性のためのハーブ活用法の講話」という題名の講習会を行った。そのほか、公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）のモンゴル養蜂活動支援事業への協力としてモンゴル養蜂視察団の見学を受け入れた。

今年度のメディア紹介は、(株)北海道アルバイト情報社の中学生向けのWeb「北海道の人、暮らし、仕事、暮らしごと」の中でミツバチが、同じく(株)北海道アルバイト情報社のフリーペーパー「マチ歩きBOOK 歩ららぶ vol.4 桑園エリア」p36・37での高校紹介内で、またモノ・マガジン「とことんマジメな日本の傑作 モノ・マガジン合併号」2016年12月16日発売号に商品のはちみつが掲載された。

このような様々な試みは今後も学内外との連携をとりながら、持続可能な事業として展開する。



ペットボトルキャップ回収

2010年度、「世界中で貧困などに苦しんでいる子どもたちのために何かしよう」という生徒たちの発案により始まった。現在は渉外委員会がこの取り組みを担当しており、各フロアに回収ボックスを設け、教室清掃の際に回収している。長期休業にはキャップの仕分け、シールはがし、洗浄を行い、年に2回大丸札幌店に持参している。1年で100キロ近くを回収しているが、集められたキャップはNPO法人「Reライフスタイル」を通じてリサイクル業者に引き取られ、その対価が認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会 JCV」に全額寄付されることで、ワクチンとなる。前回持参したペットボトルキャップは72kgで18名分のポリオワクチンに相当する量であった。

学校全体へ取り組みの意義を伝え、微力ながらも継続していきたい活動である。

国際協力活動

多文化共生および国際協力活動を盛んに行う部活動「遊語部」では、2014年度からフェアトレード商品販売活動に積極的に取り組んできた。JICA世界ふれあいひろば、アースデイ、フェアトレードフェスタ、学校祭、ユニセフ広場、国際協力フェスタ等様々なイベントで販売活動を行い、売上金の10%を北海道ユニセフ協会を通じて、世界の子どものために寄付してきた。発展途上国の生産者を支援するだけでなく、学校に通うことができない子どもたちの支援にもなり、大変有意義な活動となっている。



ユネスコカレンダー市ボランティア

ユネスコカレンダー市に本校生徒が毎年ボランティアとして活動に参加している。

4月

JNNE 教育NGOネットワーク 「世界一大きな授業」に参加

「世界一大きな授業」とは、JNNE（教育協力NGOネットワーク）主催の世界100カ国の子どもたちと一緒に教育について考える世界規模のイベントである。今年度のテーマは「すべての子どもに教育を、みんなが動けば世界は変わる」である。本年度は1年次の全生徒を対象に実施した。

日本や世界の教育の現状について知り、教育の大切さ、自分たちに何ができるかを考えるとともに、生徒たちは自分たちの学習環境を客観的に見つめなおすことができ、学習へのモチベーションにつなげることができた。

生徒からは、「学校に行けることは当たり前のことではなかったと初めて知った」「きれいな水が飲めることに感謝したい」など感想が寄せられた。



7月

グラント高校生の受け入れ

平成28年度「札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業」により、グラント高校の女子生徒1名を本校に2週間受け入れた。生徒は基本的にホームステイ先の生徒と同じ授業を受け、様々な場面で本校生徒と交流した。例えば、渡日帰国生徒対象の現代社会の授業では、ポートランドについて写真や動画を使って紹介してくれた。また、ホスト生徒と一緒に書道部の活動に参加し、作品を完成させ、外国人を対象にした書道甲子園に応募した（この生徒の作品は、準大賞となった）。札幌滞在中、他のグラント高校生と博物館でアイヌ文化を学んだり、北海道の自然に触れる機会もあった。

NGO 韓日社会フォーラムによる韓国高校生の訪問

7月22日（金）に11人の韓国人学生（大学生、高校生）と引率者2名が本校を訪問した。午前中は歓迎セレモニーが行われ、本校の遊語部生徒が司会を、2名の韓国人生徒が通訳を務めた。生徒会長は韓国語を学習中なので、あいさつを韓国語で行った。歓迎の意も込めて、書道部によるパフォーマンスを行った。その後、本校の生徒がガイドとなり、校内の施設見学及び授業見学を行った。韓国の学生たちはソウル及びその近郊から来ていたが、みな日本文化に興味があり、生徒にいろいろ質問をし交流を深めた。韓国語の話せない生徒は、英語で意思疎通を図っていた。

休憩をはさみ、昼休みには、和太鼓伝統芸能部の活動を見学した。初めて見る和太鼓の演奏に圧倒され、衣装や曲の意味にも興味を抱き、実際に部員に質問をする姿が見られた。

昼食休憩では、遊語部の有志がK-POPにあわせてダンスを披露し、お返しに韓国人生徒たちが一人ずつ自己紹介や特技を披露する場面もあった。

午後は書道体験授業で、書道部の協力を得て、各自持ち寄ったTシャツにお気に入りのことばを書き、完成後は記念に持ち帰ってもらった。歓迎セレモニーからはじまり、校舎や授業の案内、部活動の交流まで、本校生徒と有意義な交流が行えた。



2016年9月～2017年3月

アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

このプロジェクトは異文化理解という科目の中で行われた。今年度は、ジャパン・アートマイル・オフィスがタイの Suksasongkro Chiang Mai School を選出してくれた。お互いのことを知り合うことから始まり、テーマである「文化の同異点」の学習を行った。自己紹介や住んでいる地域の紹介をビデオレターを通じて交流したのち、食文化、伝統芸能、スポーツ、祭日などを紹介しあい同異点を見つけ、それらを壁画に描いた。



10月

青少年交流事業「JENESYS2.0」による中国高校生の訪問

上記の事業により、中国人高校生28人、引率者4名が10月28日（金）に本校を訪問した。午前中は、歓迎セレモニーを行い、遊語部が司会と通訳を務め、書道部がパフォーマンスを行った。中国の訪問団からは少数民族であるミャオ族の伝統歌が披露された。書道パフォーマンスは中国では行われていないということで、好評であった。

昼食は、学生食堂で札幌名物のスープカレーを堪能し、食後は部活動に参加した。女子は茶道部でお手前を体験し、男子は和太鼓伝統芸能部の演奏を聞いた後で、部員のサポートを受け和太鼓を体験した。

午後は、中国人高校生がグループに分かれ、それぞれ希望の講座に参加した。各グループには本校の通訳生徒が付き、中国語か英語で通訳を行った。1日の体験が終わり、記念写真撮影後には、握手をしたり、ハグをしたりし、名残惜しそうであった。

11月

Circle The World（札幌国際教育推進委員会主催 ALT交流会）に参加

札幌市のALT（外国語指導助手）が企画するワークショップと、生徒自ら行うワークショップにより、小さな世界旅行（Circle The World）を体験する、というもの。今年度はALT30名と、札幌市立高校7校からの生徒約100名が参加した。本校から参加した生徒たちは、複数のワークショップに参加し、英語で交流を深めた。

12月

2年次「ESD学習」

2年次「ESD学習」は、1年次を発展させたもので、今年度が2回目の試みである。12月8日（月）に2年次の全生徒を対象に実施した。テーマは「札幌の身近なESD」である。札幌には、扇状地から生み出される「伏流水」を利用して発展してきた産業があり（味噌、酒、豆腐など）、街の発展を支えてきた。一方で、その発展とともに失われていったものがあることに気付かせ、郷土「札幌のESD」について考えた。

前半は、ESDの概念を復習し、NHKで放送された「ぶらタモリ『札幌』」（録画）を視聴した。この番組では、本校の近辺に明治時代くらいまで湧水（アイヌ語で「MEM」）が湧き出しており、それがなぜ失われたのかを考察しており、今回の学習内容に沿うものであった。

後半は、昨年同様北海道コココーラボトリング（株）に協力いただいた。2人の担当者が硬水と軟水の違いを、生徒に水の飲み比べをさせながら説明して下さった。その後、札幌工場で生産している飲料水の作り方を説明して下さり、企業理念、企業としての責任について説明があった。企業として「汲み上げた地下水はその分地下に戻す」「水源を汚さない」ということを徹底しているということであった。「ESD」ということばを使わないまでも、「ESD」の理念にかなった取り組みで、生徒にとって有意義な内容であった。



1月

NGO 韓日社会フォーラムによる韓国高校生の訪問

メキシコ日本語教師会・ペラクルス州立大学言語センターハラパ校生徒訪問

1月30日（月）、31日（火）に12名のメキシコ人高校生と引率者2名、31日（火）に7名の韓国大学生（大学生、高校生、中学生）と引率者1名が本校を訪問した。

1日目は、異文化理解の授業に参加し、アートマイルの取り組みを見学したり、授業でメキシコについて紹介してもらった。昼休みは、茶道部での体験や遊語部生徒との交流が行われた。

2日目は、午前中は歓迎セレモニーが行われ、本校の遊語部が司会、アメリカ人と韓国人生徒とが司会を務めた。生徒会長も英語でスピーチを行い、学校や札幌紹介には多言語資料を用意した。書道部のパフォーマンスの後、本校の生徒の案内で校内の施設見学及び授業を見学した。



休憩をはさみ、和太鼓部の活動を見学し、実際に本校生徒の指導で和太鼓を体験した。昼食後は、グループに分かれ、それぞれ希望の講座に参加した。各グループには本校の通訳生徒が付き、韓国語か英語で通訳を行った。1日の体験が終わると記念写真を撮影し、連絡先を交換し合った。3カ国の生徒が、身振り手振りも交えて交流し、とてもよい経験になった。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（部活動や生徒会活動

)